

「平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震」について（第 17 報）

○余震活動の状況

活発な余震活動が続いています。

これまでに発生した M7.0 以上の余震は 3 回、M6.0 以上の余震は 44 回です。

余震は、岩手県沖から茨城県沖の長さ約500km、幅約200kmの広い範囲で発生しています。過去の地震の事例から見ても、今回の余震活動は極めて活発な状況です。

（余震回数等はいずれも速報値であり、今後、修正されることがあります）

○余震の見通しについて

余震活動は非常に活発です。広い範囲で余震が発生しているため、同じ規模の余震であっても、発生する場所により各地での震度は異なります。

今後も、岩手県沖から茨城県沖の領域では大きな余震が時々発生し、震源地に近いところでは、最大震度 5 弱以上となる可能性があります。場合によっては、震度 6 弱～6 強となる余震が発生する可能性もありますので警戒して下さい。

○防災上の留意事項

揺れの強かった地域では、土砂災害や家屋の倒壊などの危険性が高まっていますので、余震による強い揺れに引き続き警戒してください。

復旧活動など屋外で行動する場合は、余震の揺れによって二次災害のおそれがありますので、十分に安全を確認して行動するよう心がけてください。

また、大きな余震が発生すると津波が発生する可能性があります。海岸で強い揺れを感じた場合、また、揺れを感じなくても津波警報や津波注意報が発表された場合には、直ちに海岸から離れ高台等の安全な場所に避難してください。

（添付資料：震度回数表、余震回数比較図、余震発生状況、参考資料）

本件に関する問い合わせ先

気象庁地震火山部 地震津波監視課 内線 4559

地震予知情報課 内線 4511、4724

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(2011年3月11日14時～)

震度4以上の最大震度別地震回数表(本震を含む)

※この資料は速報値であり、本震発生直後や障害中の震度計のデータが反映されていません。
日別回数

期間	最大震度別回数						震度4以上を観測した回数		備考
	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計	
3/11 14:00-24:00	23	2	2	1	0	1	29	29	
3/12 00:00-24:00	14	1	0	0	0	0	15	44	
3/13 00:00-24:00	2	1	0	0	0	0	3	47	
3/14 00:00-12:00	0	1	0	0	0	0	1	48	
総計	39	5	2	1	0	1	-	-	

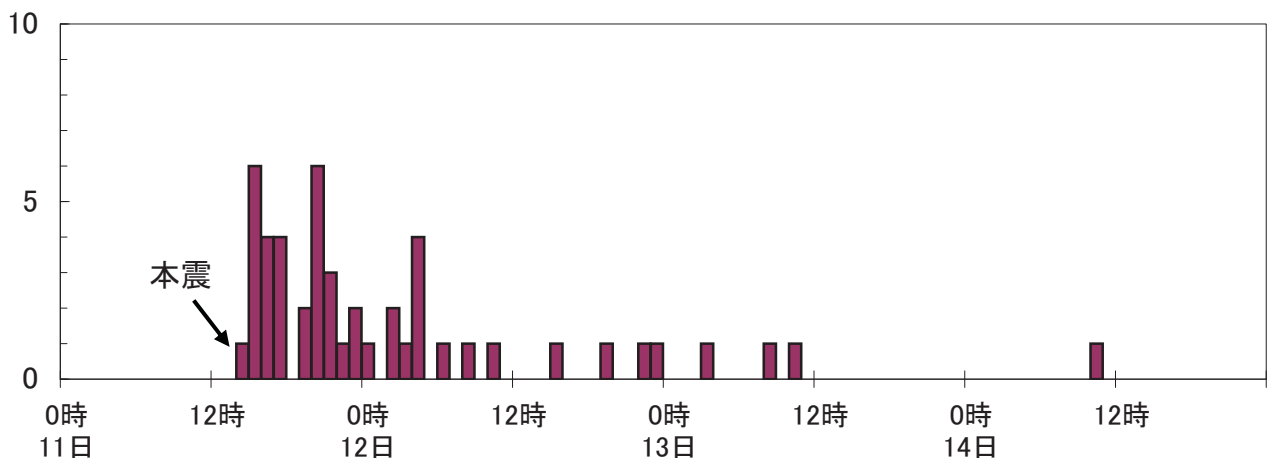
本震

3月14日の時間別回数

時間帯	最大震度別回数						震度4以上を観測した回数		備考
	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計	
00:00-01:00							0	47	
01:00-02:00							0	47	
02:00-03:00							0	47	
03:00-04:00							0	47	
04:00-05:00							0	47	
05:00-06:00							0	47	
06:00-07:00							0	47	
07:00-08:00							0	47	
08:00-09:00							0	47	
09:00-10:00							0	47	
10:00-11:00		1					1	48	
11:00-12:00							0	48	
日累計	0	1	0	0	0	0	1	-	
総計	39	5	2	1	0	1	-	48	

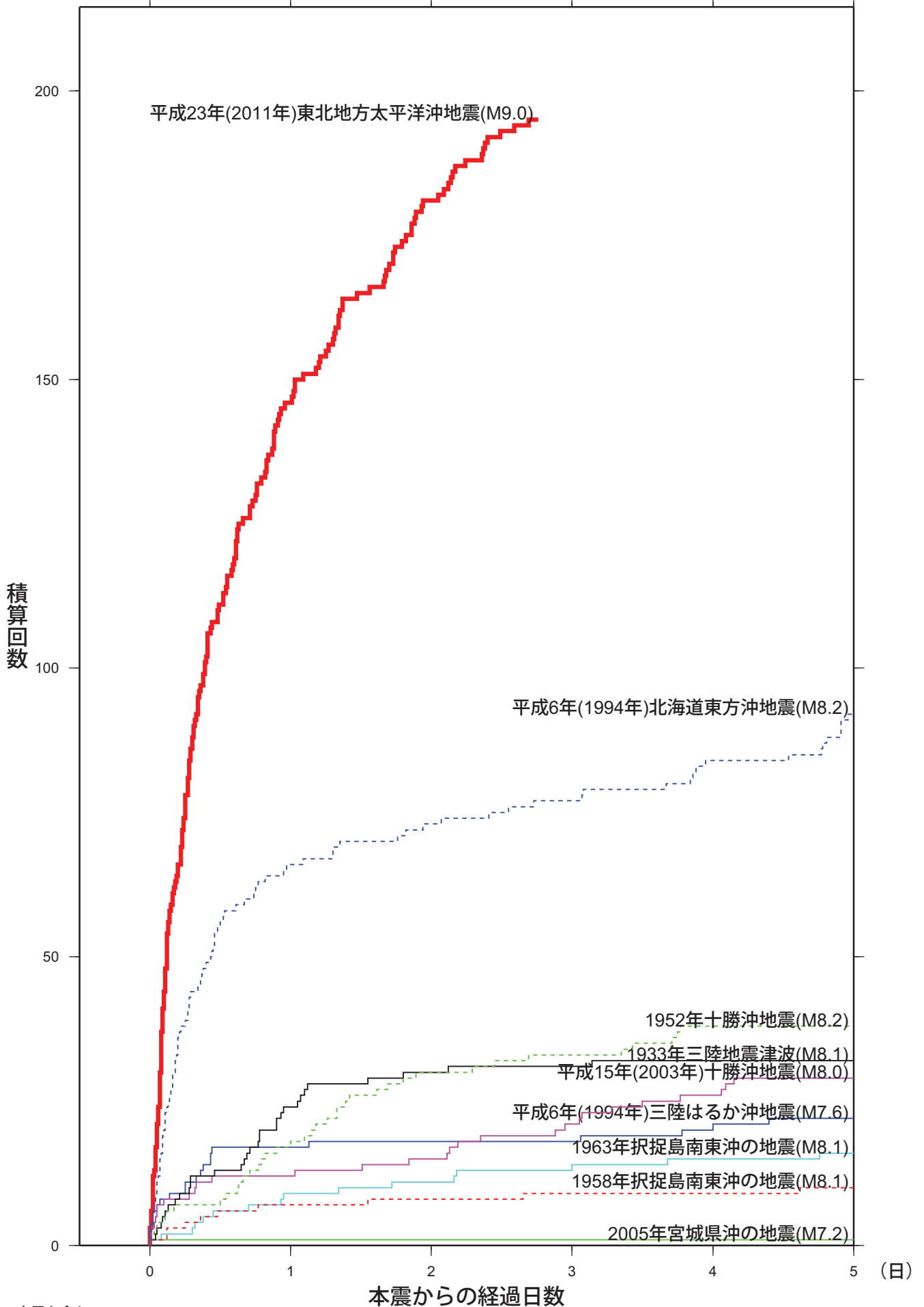
平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震 (平成23年3月11日 14時～、震度4以上)

回数(回)



プレート境界で発生した主な地震の余震回数比較 (マグニチュード5.0以上)

2011年03月14日09時00分現在



※本震を含む。

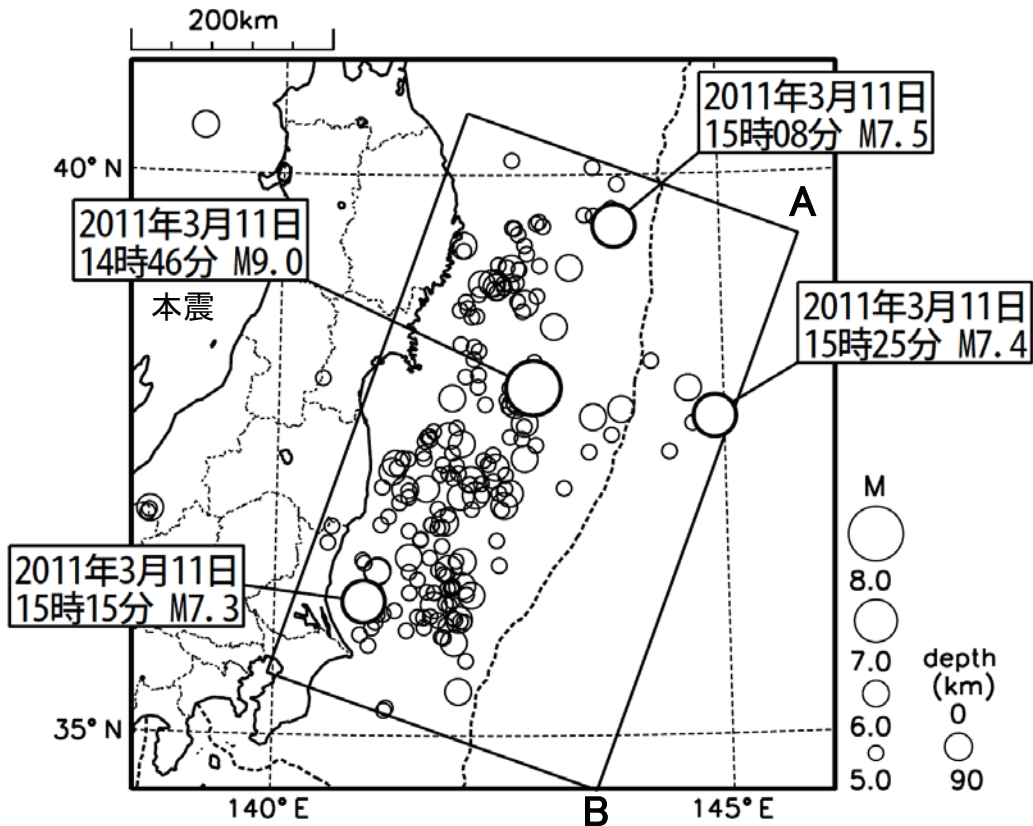
※この資料は速報値であり、後日の調査で変更することがあります。

気象庁作成

平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震 余震の発生状況

震央分布図 (本震以外は速報値)

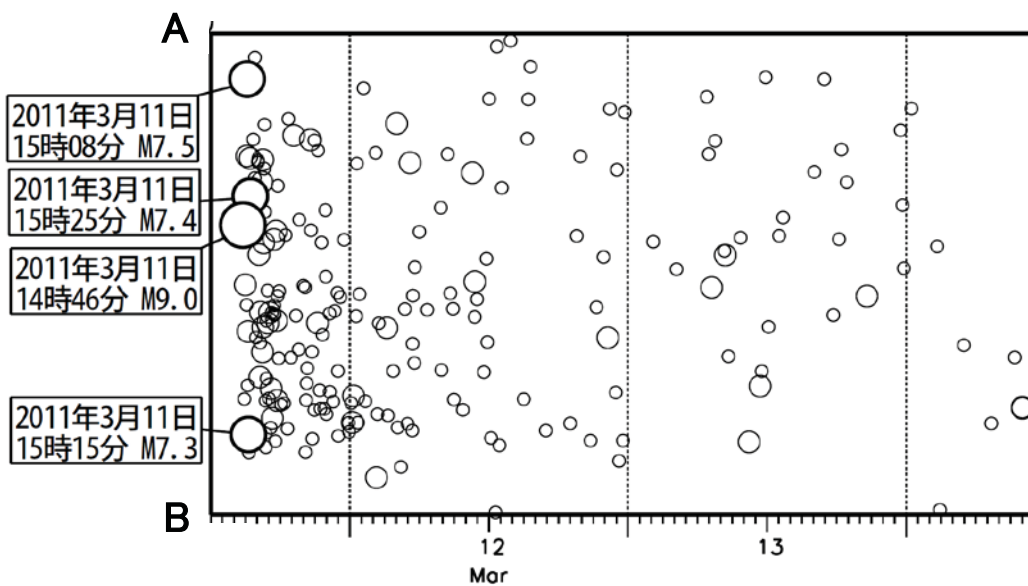
(2011 年 3 月 11 日 12 時 00 分 ~ 14 日 11 時 00 分、深さ 90km 以浅、 $M \geq 5.0$)



丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

M7.0 以上の地震に吹き出しをつけている

上図矩形内の時空間分布図 (A-B 投影)



横軸は時間、縦軸は上図の A-B の範囲を示す。

発生した時刻にマグニチュードの大きさに対応した丸を示した。

(参考)余震発生確率 (平成 23 年 3 月 14 日 08 時現在での推定)

現在までの余震発生状況から推定した余震発生確率は以下のとおりです。

	最大震度5強以上
3月14日14時から3日間以内	40%
3月17日14時から3日間以内	20%

* 地盤の悪いところではこれよりも震度が大きくなる場合があります。

注 仮に余震が内陸や沿岸部で発生した場合、これよりも震度が大きくなる場合があります

余震発生確率は地震活動の活発さの目安ですが、これは現在までの余震発生状況から推定したもので、今後の活動の変化によって変わる可能性があります。

なお、上記の数値は M7.0 以上の余震が発生する可能性をもとに計算したものです。昨日(3月13日)の報道発表資料では、「マグニチュード7以上」と表現しておりましたが、わかりにくいとの指摘がありましたので、最大震度による表現に変更いたしました。

・余震発生確率を算出するにあたっての前提

これまでの地震活動の推移から、本震—余震型であることを前提として、余震発生確率を算出しています。

・本震—余震型の特徴

本震—余震型の地震活動では、最初に最も規模の大きい本震が発生し、それに続いて余震が多数発生します。余震の発生数は大局的には時間とともに徐々に減少していきます。ただし、余震の減少の仕方は様々で、単調に減少していくこともあります。場合によっては減少していく過程で増減を繰り返すこともあります。

・余震発生確率の意味

ある大きさの余震に注目した場合に、その大きさの余震が、ある時点からある期間内に発生する確率を余震発生確率と言います。例えば、マグニチュード7.0以上の余震がある時点から3日間以内に発生する確率が10%である場合、3日間以内にマグニチュード7.0以上の地震が必ず発生するとは評価されませんが、全く発生するおそれはないという評価でもありません。同様な地震活動の場合、10回発表したうちの1回は3日間以内にマグニチュード7.0以上の余震が発生するという意味です。

なお、余震発生確率10%という確率は低いように思えますが、平常時、東北地方から関東地方の太平洋沿岸および沖合の地域で、マグニチュード(M)7.0以上の地震が3日以内に発生する確率は0.2%程度です。

問い合わせ先: 気象庁地震火山部地震予知情報課 内線 4562